

盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（東京湾活き活き研究会）

日時：2021年5月28日（金）9：30-13：00 干潮時刻 12：07 天気 晴時々曇

場所：盤洲干潟（木更津漁協の潮干狩り場）

昨年の新型コロナ「緊急事態宣言」が今年も同様に発令されておりました。平日であったこともあり、潮干狩り場はかなり空いておりました。

例年、岸から800mまで観察していましたが、昨年は潮干狩り場が網柵（アカエイ除け）できちりと囲われていて観察は岸から250mまでとなりました。今年は、網柵範囲の外側へも出ることができましたが、沖方向の干出が少なく、時間の制約もあり、岸から400mまでの範囲の観察地点（下図の赤印、50~100m間隔）で熊手、手網等を用いて底生動物の状況を確認しました。

潮干狩り場の網柵の内側ではお客さん用にアサリを撒いているのでしょうか、小粒でしたがアサリがまとまっているところが多かったです。入場料は1800円（制限重量：2kg）でした。

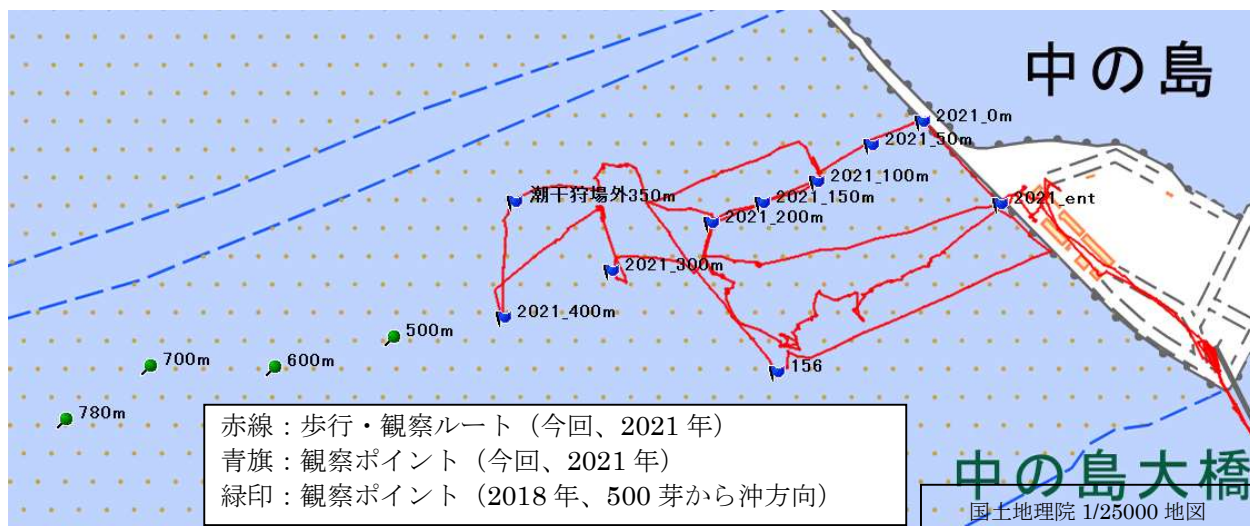
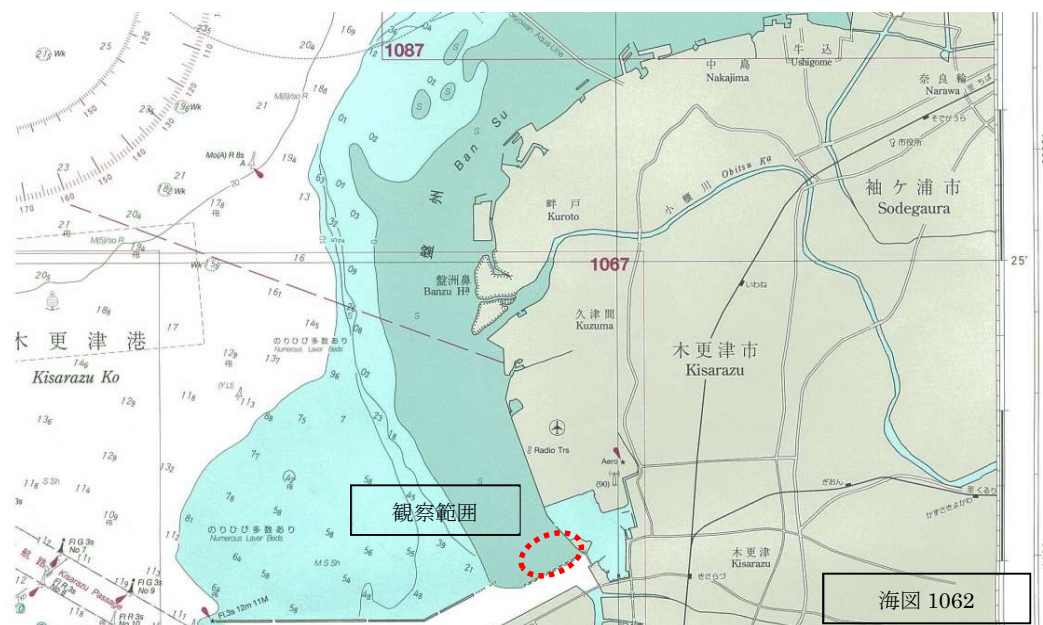


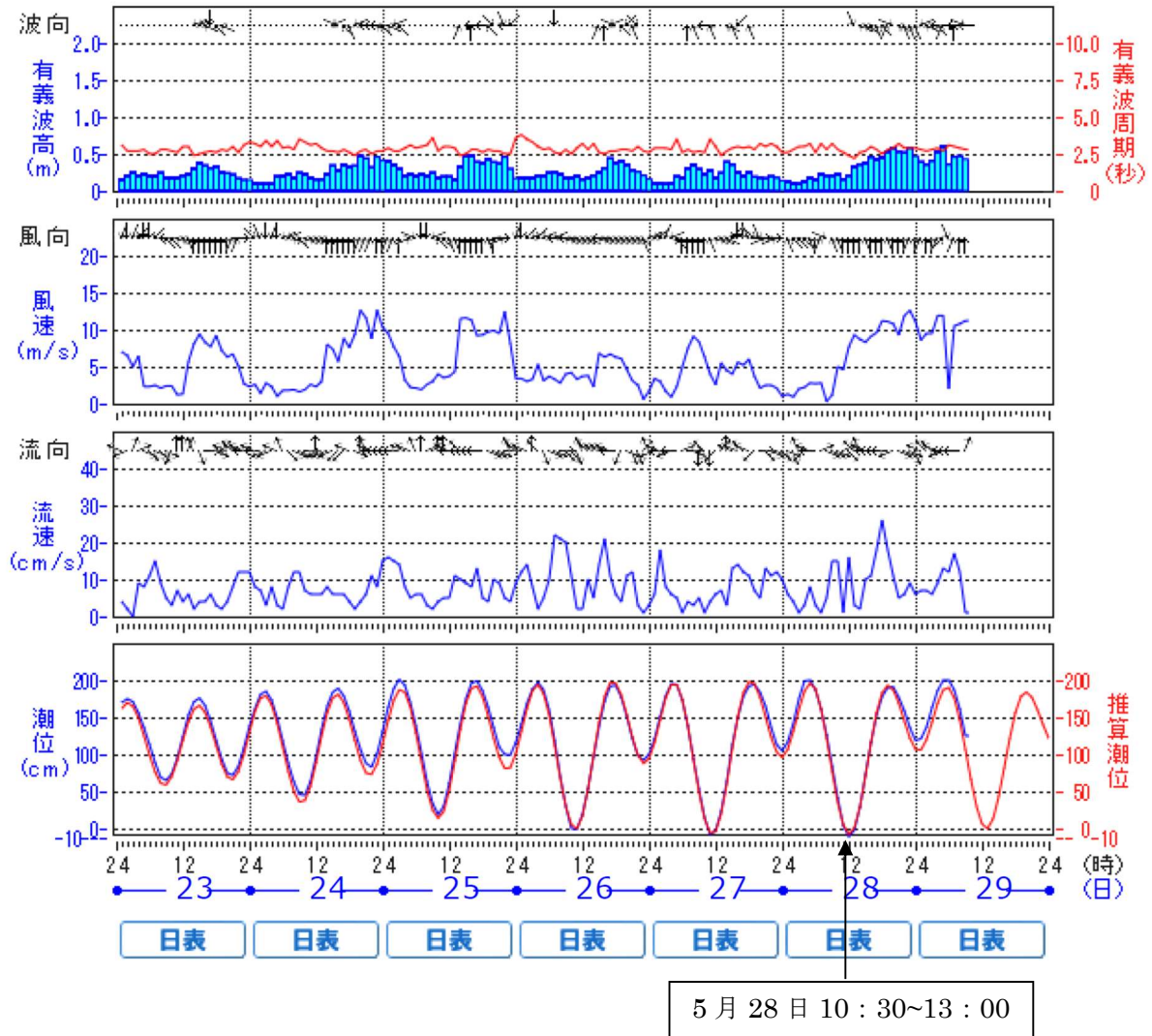
図-1 観察の範囲と観察ルート

【当日の実測潮位と気象海象の状況】

例年、観察日は気象庁の潮位表を確認して潮がよく引く大潮期に設定します。

当日の干潮時刻（木更津）は、12:11 予定でしたが、潮位実測データ（東京都港湾局）は図-2に示したとおりであり、推算潮位で見込まれたのと概ね同程度に潮が引いておりました。

（実測データは東京港内で木更津は多少離れておりますが、その傾向は概ね同様でしょう。）



<http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/tokyop/topframe.htm>

観測期間：2021年05月23日～2021年05月29日

観測地点：東京港波浪観測所

図-2 実測潮位等の経時変化（東京都港湾局の観測データ）

【概況】アサリは、底質表面のふるいがけで稚貝を確認しました。潮干狩り場内では2cm前後の小型のものがまとまって確認されましたが、潮干狩り場の外側ではそうではなかったため、漁業組合がお客様用に撒いていると思われます。ハマグリはごく少々ですが確認できました。アラムシロガイ、キサゴ類は結構いました。シオフキガイ、バカガイ、ツメタガイ、アカニシ、もごく少数確認できました。海藻のコアマモは300mから沖に群落が確認され、アマモも散見されました。底質は砂泥質で、護岸に近いところや潮干狩り場外側では還元状態のところがあり、潮干狩り場では海底耕うんを実施していると思われます。ハゼ科の稚魚、ボラの稚魚もいました。

【干潟の状況】

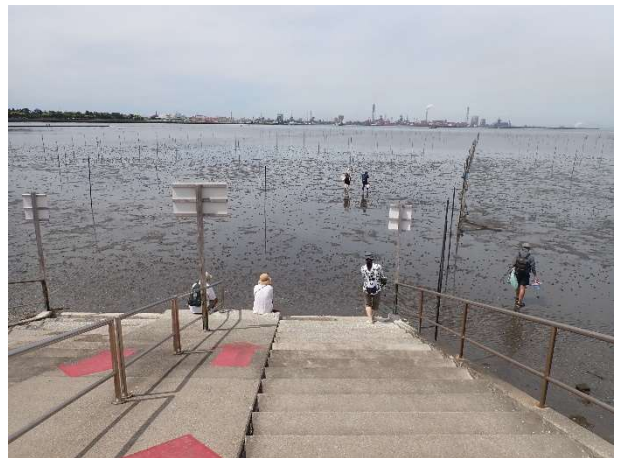


【潮干狩り場】

入り口には、昨年と同様な掲示がありました。金、銀のハマグリ探しは恒例の行事です。「しおひがりじょうの仲間たち！！」は、アサリ、ハマグリ、カガミガイ、アシハラガニ、コメツキガニ、ヤマトオサガニ、ケフサイソガニ、ニホンスナモグリ、アゴハゼ（ダボハゼ）、ヒトデ、クモヒトデとありました。「感染症対策の取り組み」の掲示は2年連続となりました。



潮干狩り場は、空いていました。平日金曜日ということもあるのでしょうか、帰りがけも変わらない状況でした。



見学会に参加したメンバーです。



☆生物の出現状況

【岸寄り、護岸付近】 護岸付近にはアナアオサ、ヨシ等の漂流物はなく、石にはカキ等が付いていました。底質は貝殻が混じる歩きやすい砂地で、黒みを帯びてやや硫化水素集（卵の腐ったような臭い）がしました。生きた貝類は見えませんでした。



【岸から 50m 付近】 砂泥質でクロムシ（タマシキゴカイ）の糞塊が多くみられました。アラムシロガイを随所で見かけました。アサリの大きさはまちまちで、稚貝も混入していました。





アサリ稚貝

【岸から 100m 付近 (干潮時刻 2 時間前)】ここでもアサリの稚貝が見られました。アラムシロガイは多く、キサゴも小さいものですが結構いました。干潮時刻の 2 時間前でしたが、この辺りから沖方向は海水に覆われていました。砂が減って地盤が低くなったのでしょうか？



岸から 100m (岸方向)



岸から 100m (沖方向)



オゴノリとクロムシの糞塊

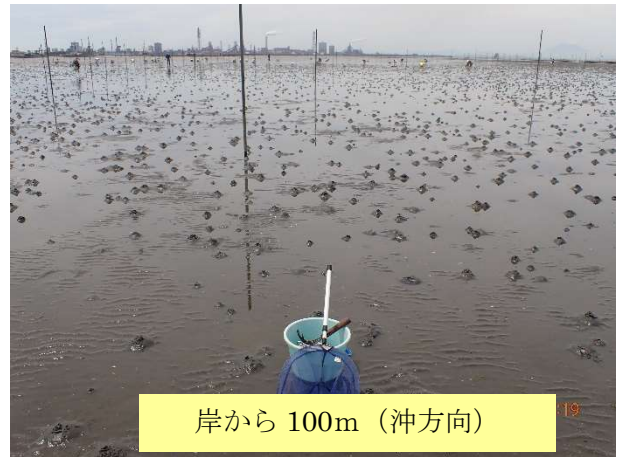


アサリ、アラムシロガイ、キサゴ

【岸から 100m 付近（干潮時刻 1 時間前）】



岸から 100m（岸方向）



岸から 100m（沖方向）



クロムシの糞塊



コアマモ

【岸から 150m】この辺り、潮干狩り客が比較的多くいました。昨年たくさん獲れたハマグリはおらず、アサリは小粒でしたが所によりザクザクといました。砂地をタモ網で探るとハゼ類とボラの稚魚はいましたが、エビジャコはいませんでした。



岸から 150m（南東方向）



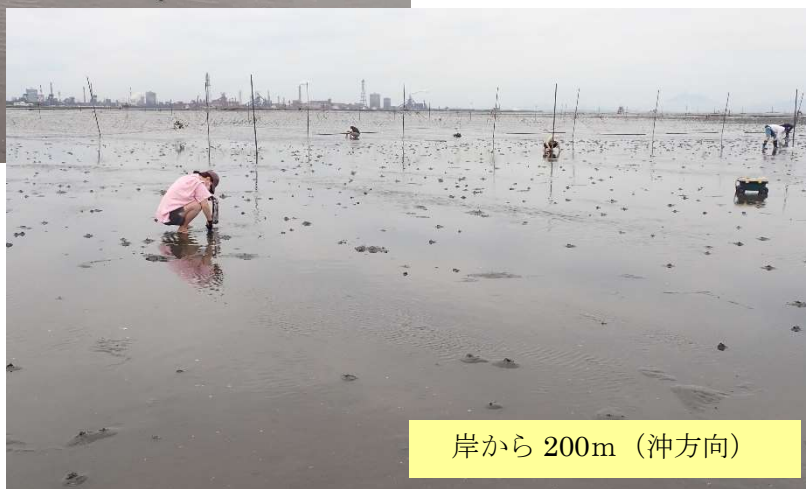
2021/05/28 11:30



【岸から 200m】 この辺りも潮干狩り客が比較的多くいました。底質は貝殻の混入が比較的少なく、150m地点と同様でした。40m程度で網柵がありました。



岸から 200m (南東方向)



岸から 200m (沖方向)



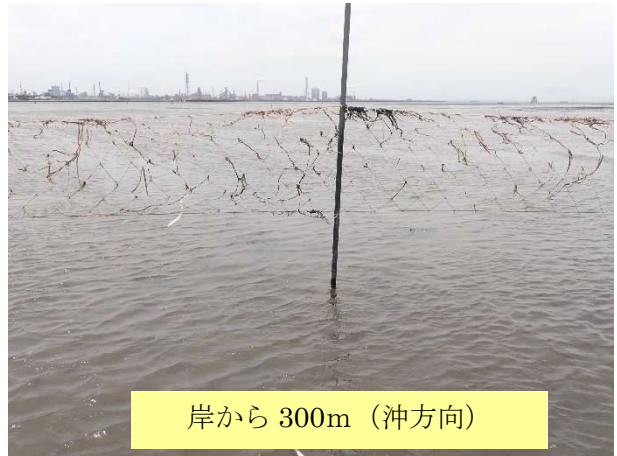
底質のふるいがけ

アサリ、キサゴ、アラムシロガイ

【岸から 300m】干潮時刻を過ぎても干上がることがありませんでした。朝は風が弱くて富士山がよく見えておりましたが、南風が次第に強まり潮の上りも早まったようです。底質は貝殻混じりの砂泥質で、貝殻が増えました。アサリ、キサゴ、アラムシロガイがいるのは同様でしたが、150m~200mの様に「アサリ（小粒）がザクザク」という状況はありませんでした。この辺りからコアマモの群落が見られ、アマモも散見されました。この辺りでハマグリを1個確認しました。



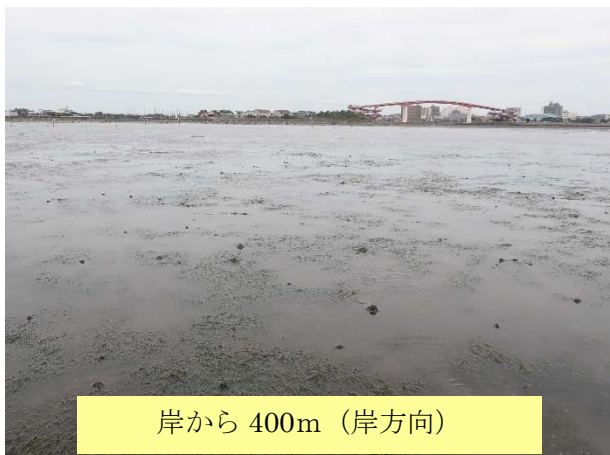
岸から 300m (岸方向)



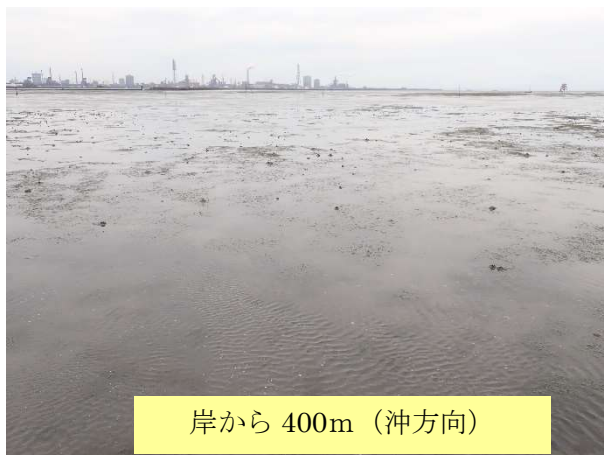
岸から 300m (沖方向)



【岸から 400m】コアマモの群落に囲まれています。ここも砂泥質ですが、貝殻がさらに多く混じるようになりました。砂地で、ふるいがけすると貝殻が多く残ります。アサリ稚貝もいました。



岸から 400m (岸方向)



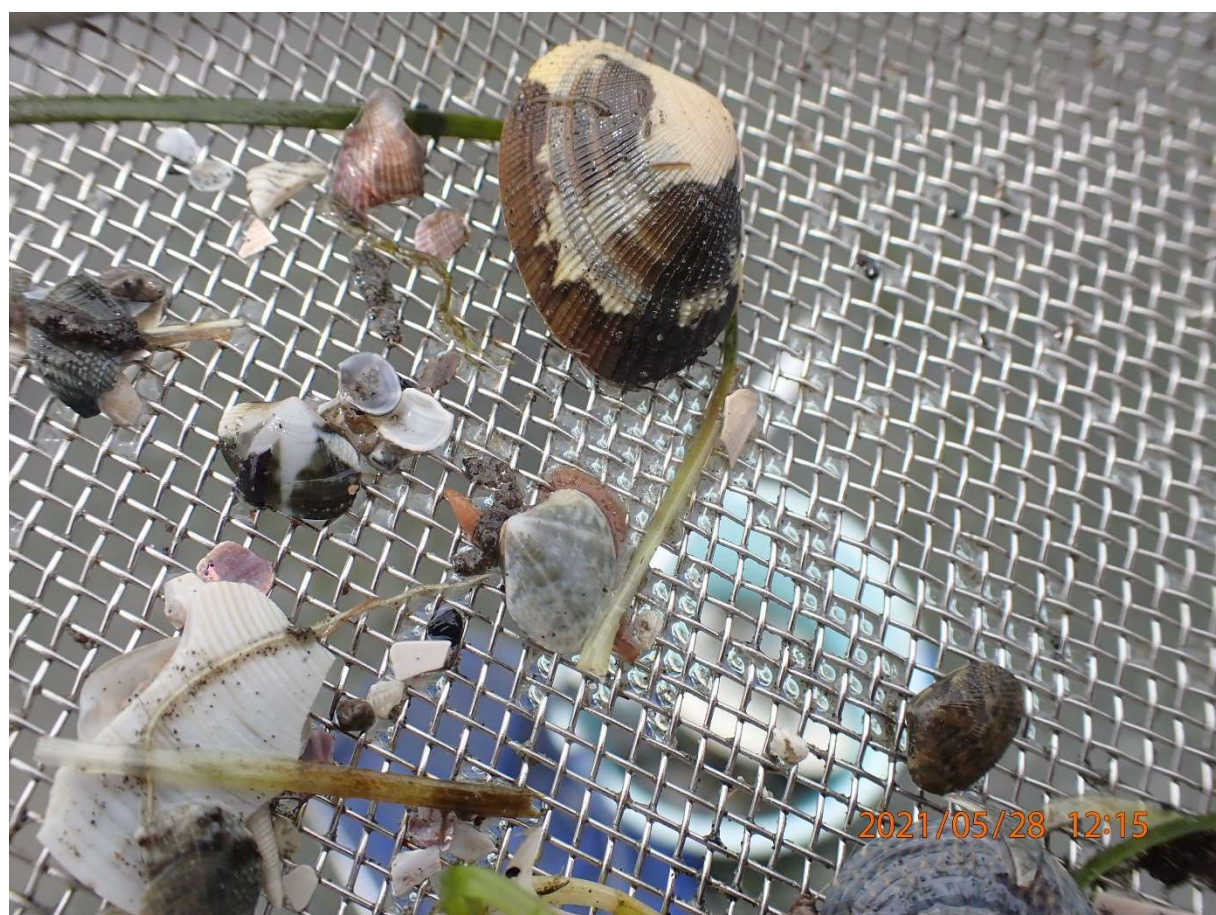
岸から 400m (沖方向)



コアマモの群落



底質のふるいがけ



2021/05/28 12:15

【確認した生物】



ハゼ科の稚魚



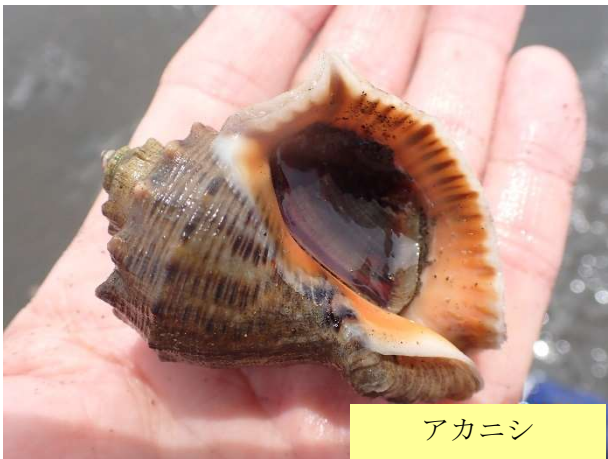
ボラの稚魚



シオフキガイ



バカガイ



アカニシ



ヤマトオサガニ?



「スナチャワン」ツメタガイの卵塊



ツメタガイ

【潮干狩りの漁獲物】 総量約 2k g



アサリとハマグリ



【食味試験】美味しかったのですが、大きなアサリほど実が小さかったのです。栄養不足？



アサリと春キャベツのバター炒め



殻の中に海水があるので、みそ汁のみそは通常の 1/4 量程度に！